



北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月30日 ●事務所/ナシオビル ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス <http://www.kitamirc.jp>

第3169回例会・2017年9月20日

本日のプログラム

「北見RC創立80周年記念夜間例会」

2017~2018年度国際ロータリーテーマ

『ロータリー:変化をもたらす』

R. I. 会長 イアン H.S.ライズリー

第3168回例会(9月13日)の記録

司会 北見西RC 山本 英敏 様

ロータリーソング 奉仕の理想

歓迎のご挨拶 北見西RC 榊原会長

本日はR I 第2500地区2017-2018年度 成瀬則之ガバナーをお迎えしての3RC合同例会です。昨年は北海道各地での台風被害が甚大で、駒形ガバナーの講話も被害に遭われた方々へのお見舞いの言葉からはじまりました。今年はL S北見が来年の平昌五輪出場を決めたおめでたい週にガバナーをお迎えすることができました。

成瀬ガバナーはじめ、来賓の皆様本日はよろしくお願ひ申し上げます。

北見RCの皆様、北見東RCの皆様、そして北見西RCの皆様、今日も一日よろしくお願ひ申し上げます。

バナー交換



講話 「2017-2018年度国際ロータリー第2500地区 地区活動方針」

国際ロータリー第2500地区 成瀬 則之 ガバナー

67クラブ全てお話をしようと思っているスピーチを用意させていただきました。

活動計画書の一番最初に「ポリオに終止符を」ということを書かせていただきました。これからお話しするお話は、東京麹町RCという所のHPを見ていた時に見つけた回顧録という中からお話をさせていただきます。

東京麹町RCに山田 彝会員という方と、Dr.であります峰 英二会員という方がいらっしゃいました。普段から奉仕活動を熱心にされている方で、1982年に彼らはインドの地に赴きます。当時3Hプログラムというプロジェクトが沢山行われていました。その中で、南インド・マドラスではしかの撲滅・予防というプロジェクトに彼らは参加すべく、インドの地に降り立ちました。最初のうちは一生懸命はしかのことをやっていたんだと思います。段々辺りが暗くなるうちに、何となく周りで音がするように気配が感じられました。気にも留めなかったんだと思いますが、段々真っ暗になり、辺りが静けさを増していくうちに、その音がこちらに近づいて来るように思われたんだそうです。多分テントの中からだと思んですが、外を覗いて二人は絶句しました。1982年当時、インドではポリオが大流行していました。蔓延していたといっても過言ではないくらい、ポリオ患者が沢山出ていました。先程の正体、ポリオで下半身が麻痺している子供たち、どういう風にして進むとお思いでしょうか。日本でいう匍匐前進です。肘を使って前に進む。その肘が地面に擦れる音、それが辺りから聞こえてきたんだそうです。お二人は当分の間、無言だったそうです。4週間のこのプロジェクトを終えて、お二人は日本に帰られます。その時にこの状態を東京麹町RCの理事会に伝えます。翌年1983年、東京麹町RCが15周年を迎えます。理事会に対してこのお二人は強く提案したことがひとつございました。「ポリオワクチンを購入していただきたい。私たちをもう一度マドラスに派遣していただきたい。悲惨な子供たちを一人でも救いたい」という思いを理事会に提出されました。私はお医者さんではありませんので、一体ポリオワクチンがどこに売っているのか、幾ら位するのか、さっぱり分かりませんが、東京麹町RCの理事会並びに会長はそれをお受けになりました。ポリオワクチン5,000人分を購入したんだそうです。そしてこのお二人を再び南インド・マドラスに派遣を致しました。四六時中、この5,000人分のポリオワクチンを、お二人はずっと子供たちに服用させ続けたんだそうです。その手記の中に「寝てるんだか起きてるんだか、生きてるんだか死んでるんだか



よく分からないけれども、子供たちを一人でも助けたいとその気持ちだけで、手だけが動いている」という手記がございました。約1ヶ月の間、この5,000人分のポリオワクチンを全て服用させ終わるまで、彼らはこの地に留まりました。当時のインドというのはどういう状況だったのかは私にも分かりません。ただ環境的にはそれほど良くなかったという風に思います。その中で自分の体調管理、それから食事、色んなことを含めてままたまならない状態のまま、お二人は1ヶ月もの間、殆ど不眠不休の状態を続けました。帰りの飛行機の中では死んだようにぐったりしていたという手記もございます。帰ってからすぐさま理事会にこのことを報告されます。時の会長はR Iにこのことを報告されます。R Iが取った措置は二つございます。一つは、その当時、世界で何百という数のプロジェクトが行われていました。その中でこの東京麹町RCの「ポリオ撲滅」を最優先と認めるという決断を下されました。もう一つは、1986~1991年までポリオと5つの伝染病、これを全て地球上から撲滅すべく、総額1億2,000万ドルの募金キャンペーンを始めるという決定を下しました。1986~1987年、当第2500地区のガバナーは遠軽RCの池内 正人さんという方です。今でも遠軽に行きますと、ポリオプラスガバナーという名称が付いているんだそうです。それだけ一生懸命ポリオのことに関わったガバナーです。次の年、1987~1988年、網走RC初代ガバナーであります秋永 智徳さんがこの2年目にちょうど当たりました。ご本人からお聞きしたわけではありませんが、相当なノルマがあった、相当な締め付けがあったという風に先輩会員からお聞きしました。そういう色んなガバナー、そして財団関係者がこぞって寄付を募った結果、日本では48億9,000万円の寄付が集まりました。では世界ではどうかといいますと、1991年6月30日を以ってこのキャンペーンは終了しました。計画は1億2,000万ドル、集まったお金が2億1,700万ドル、これも額は非常に膨大な額だという風に私は思います。そして皆さんご承知のように今でもポリオは続いています。現在ポリオの常在国は2カ国になりました。では1980年代、一体どれだけのポリオ常在国があったかといいますと、125カ国、毎年35万人の子供たちが非常に悲惨な状態におかれていました。そして今、財団の寄付というのは非常にボリュームが大きくなりました。アトランタの国際大会でビル・ゲイツさんが壇上に登ってこういう風にお話をされました。「R Iは向こう3年間1億5,000万ドルを集めていただきたい。私共財団はその倍額の3億ドルを用意いたします。4億5,000万ドルでこの地上からポリオを撲滅しましょう」というお話をされました。非常に大きな額になります。ただ1986~1991年こういう奇跡的な財団も有りませんでしたので、一人ひとりの寄付の積み重ねがこういう額になったという風に私は思っています。

1988年、あれから5年が経ちまして、東京麹町RCが創立20周年を迎えます。この栄えある会長職に当時インドに行かれました山田 彝会員が就くことになりました。ところが3ヶ月も経たないうちに急死されます。もう一人、一緒にインドに行かれましたDr.の峰 英二会員も後を追うように他界をされました。回顧録は最後にこんな文章で括られています。「志半ばにしてインドでの風土病がもとでお亡くなりになられたお二人。まさに壮絶な戦死のようなものである」こんな文章で回顧録は閉じられています。インターネットを見られる方、是非東京麹町RCを訪ねてみてください。これと同じ文章がこの中に載っています。R Iを突き動かした、それは確かに凄いです。R Iはこれでポリオを始めたようなものです。もっと先にフィリピンというのがございましたが、実際問題最優先として認めたのは、この日本人お二人の働きがあったから、R Iは認めたということになります。それよりも何よりも、自分の命を懸けて子供たちを救うという信念を持ってインドに向かわれたこのお二人を、私たちは誇りに思うべきだという風に思っています。このお話を無くしてはいけなく、これを消しちゃいけないという思いで、私は67RC全てでこのお話をさせていたかどうかという風に思いました。こちらに控えていらっしゃる越膳ガバナー補佐は寄付を集める側の委員会のお一人であります。皆さんの所に寄付のお伺いをする事になると思いますが、その時はどうぞ笑顔で「分かりました」と言って寄付をして頂きたいという風に思っています。



【次回9月20日】

「北見RC創立80周年記念夜間例会」

編集後記

めっきり朝・夕の気温が下がり、会員の皆様方は体調にお気を付け下さい。

(N.N)

2017~2018年度 北見R.C.活動方針

楽しく学び、楽しく実践しよう

ガバナー・エレクトとは

次年度ガバナーに就任する方です。ガバナーエレクト研修と国際協議会への出席が義務とされます。

2017~2018年度 北見RC

●会長/舟山秀太郎

●幹事/岡村 金司

●週報編集/長屋 憲明